

R 2 学校評価自己診断について

- ・回答率は、保護者については昨年度と変わらない（知的のみ3ポイントアップ）が教職員については、大幅にアップした。肢体45ポイント、知的25ポイントアップである。
- ・肢体部門、知的部門とも保護者の肯定的回答を見ると、概ね好意的にとらえて下さっているようである。昨年度と比較して、10ポイント以上アップしているものもある。昨年度無回答が多かった項目について、質問の内容は変えずに質問の語尾や表現を少し変えたことも結果につながっていると思われる。
- ・肢体教職員では、7.「キャリア教育」について、15.「図書館の活用」についての数値が激減している。本年はコロナ感染症の影響で、夏休み中の事業所訪問や生徒の一日体験等が中止となったことが要因と思われる。図書館の活用についても絵本の読み聞かせ会（昨年度4回開催）がすべて中止となったことが大きい。18.「防犯・防災計画」については本年度防災被災対策委員会を立ち上げ、実践に即した内容の訓練や防災対策を計画し、危機に備えようとしており、次年度以降の数値についても注視していきたい。
- ・知的教職員では、20.「センター的機能の役割」、21.「PTA活動について」の数値が減っている。上記同様、コロナ禍で大阪市内の学校園に赴くことができなかったり、PTAの活動についても行事をやむなく中止せざるを得なかったりしたことが考えられる。
- ・両部門に共通して26.「会議の内容が教育活動や学校運営に生かされている」の項目が意外にも低い数値となっている。会議での内容が、教育活動に結びついておらず、管理職まで意見として届いてないことが考えられ、組織としての在り方を考え直す必要がある。教職員の意見を吸い上げるために学年主任・学部主事・分掌長から首席、教頭へのパイプを太くし、会議の内容が生かせるようにしていきたい。